

# 事業概要シート

施策 0402 地域間交流の推進

《 》の金額 補正予算要求時…当初・繰越予算の合計額  
 新年度予算要求時…当初・繰越・補正予算の合計額

事業名	姉妹都市交流事業	現状維持	予算額		3,732 千円
			《 》		3,414 千円
事業期間	昭和54年度 ~	財源内訳	国庫支出金	0 千円	
			県支出金	0 千円	
根拠法令要綱等	伊丹市・大村市姉妹都市提携に関する協定、姉妹都市提携に関する協定書、大村市姉妹都市親善事業費補助金交付要綱	地方債	0 千円		
		その他	0 千円		
		一般財源	3,732 千円		

【事業の目的・概要・対象】

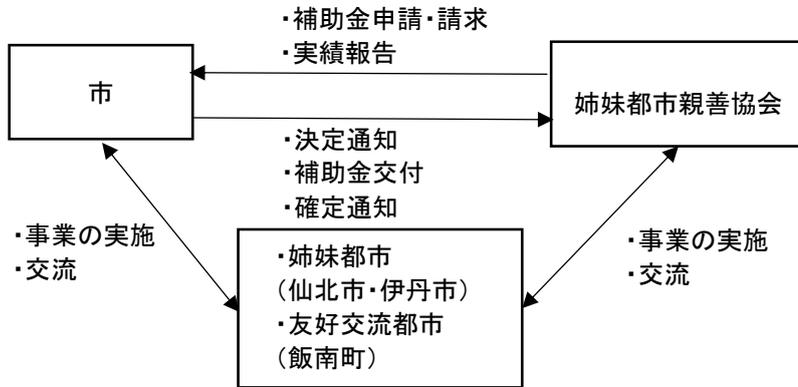
(目的) 姉妹都市、友好交流都市間の人的交流や経済・文化交流を活性化させる。  
 (対象) 仙北市・伊丹市・飯南町及び大村市民、大村市姉妹都市親善協会

姉妹都市協定を昭和54年に仙北市(角館町)、昭和55年に伊丹市と締結した。5年毎の姉妹都市締結記念事業を市と姉妹都市親善協会の共催で実施している。また、平成27年に友好交流都市協定を締結した飯南町とは、「おおむら夏越まつり」への参加、青少年親善交流(1年おきに相互訪問)を実施し、交流を深めている。

そのほか、毎年、5月に伊丹市で開催されている「緑化フェア」に市と物産振興協会が参加し、6月に大村市で開催される「花菖蒲まつり」に仙北市、伊丹市、飯南町から物産展を出店するなど、経済交流を図っている。

平成30年度は、戊辰戦争150周年(浜田謹吾少年没後150周年)の節目の年に当たり、大村市で記念事業を実施した。

平成31年度は、仙北市との姉妹都市提携40周年記念事業を仙北市において開催する予定。



【背景】

姉妹都市親善協会の会員数は減少傾向にあるが、それを補うだけの新規会員の増加は困難な状況である。  
 姉妹都市、友好交流都市との交流を継続的に深めるため、さらに青少年等の相互交流を推進していく必要がある。また、物産振興協会等の関係団体と密な連携を図る一方、新規会員の加入促進にも努めていく。

担当課	企画政策課	課長	横田 良一
担当者	松園 洋平	問合せ先	0957-53-4111 (内線215)

# 事業概要シート

## 【活動指標】

指標名		単位	H28 (実績)	H29 (実績)	H30 (目標)	H31 (目標)	H32 (目標)
①	姉妹都市・友好交流都市との交流回数	回	5	5	6	7	6
②		目標値					

## 【成果指標】

指標名		単位	H28 (実績)	H29 (実績)	H30 (目標)	H31 (目標)	H32 (目標)
①	姉妹都市・友好交流都市相互訪問参加者及び協力者数	人	151	180	260	260	260
②		目標値					

## 【予算・決算】 (千円)

事業費は当初・繰越・補正予算の合計額

年度	H28	H29	H30	H31	H32	H33	合計
事業費	3,229	3,269	3,414	3,732	3,732	3,732	21,108
国庫支出金							0
県支出金							0
地方債							0
その他							0
一般財源	3,229	3,269	3,414	3,732	3,732	3,732	21,108
人件費	2,465	2,565	2,665	2,665	2,665	2,665	15,691
職員(人)	0.32人	0.32人	0.35人	0.35人	0.35人	0.35人	2.04人
時間外勤務(h)	69h	119h	60h	60h	60h	60h	428h
嘱託員(人)							0.00人
フルコスト	5,694	5,834	6,079	6,397	6,397	6,397	36,799

妥当性 (市の関与)	大村市姉妹都市親善協会等の民間団体における交流を推進するため、記念事業や各種交流事業への市の関与は妥当である。
有効性 (施策貢献度)	姉妹都市及び友好交流都市間の人的交流、経済・文化交流を活性化させることは、地域間交流を推進するための手段として有効であり、必要な事業である。
効率性 (コスト)	姉妹都市親善協会への補助金については、これまで見直しを図りコスト削減に努めており、報酬及び旅費も必要最小限であるため見直す余地はない。

1次評価	担当者記載のとおり
2次評価	1次評価のとおり